

アイヌ口承文芸テキスト集13  
白沢ナベ口述 ウエペケレ  
チセコロカムイの怒り

採録・訳・註 中川裕

キーワード：アイヌ語、口承文芸、散文説話

このテキストは、千歳市蘭越出身の白沢ナベ氏（1905-93：戸籍上は1906-）の語りによる uepeker 「散文説話」で、1992年6月2日に白沢氏の自宅において録音したものである。整理番号はN9206021UP。当時、平取町旭在住の上田とし氏が「以前一度会ったことのある白沢氏と、もう一度アイヌ語で会話をしたい」という希望のあることを聞き、本田優子氏（現札幌大学教授）とともに、上田氏を白沢氏の家に入れて行って、アイヌ語会話を記録するという企画を行った。その二日目における録音である。私と、上田氏、本田氏に加えて、当時千葉大学文学部の学生であった小崎真司氏がビデオ撮影係として同席している。なお、この前日に行った二人の会話について、拙著『アイヌ語をフィールドワークする』（1995、大修館書店）において、その一部を紹介している。

あらすじ

私はウライウシナイというところに住んでおり、一人暮らしではあったが、男の仕事でも女の仕事でも何でもできるので、料理も自分でおいしいものを作り、狩りに行っては立派な鹿や熊をとり、魚を捕りに行っても大きな魚ばかり捕ってきた。しかし、一人暮らしなので余ったものは家じゅうにぶら下げて干し、肥えた肉や魚ばかりなので、それが油をしたたらせている。そのように何を食いたいとも何を欲しいとも思わずに暮らしていた。狩りに行って山を歩きまわると、あちこちの村の人たちと出会うので、狩小屋で色々な話をしていた。

ある日一緒に泊まった人がこのような話をした。

「釧路には、釧路河口、釧路中游、釧路上流の三つの村が並んでいるのだが、釧路河口の村の村長はとても料簡の悪い奴で、村人が狩りに行って鹿や熊を獲ってくると、『お前たち俺の狩場で猟をしたな』と、チャランケをしかけてきて、肉を半分横取りした上、行器やお椀や杯や鉢も、賠償品として持って行く。それでたいそうな長者になっているが、私たちはそれで大変

困っている」

その話を聞いて、私は独学ではあるが自分より雄弁なものはいないと思うので、いつかそこに行ったなら、口でこらしめてやろうと思った。そう考えて何年かすごし、ある日思い立ってその村に向かった。

どうやって行くのかはわからないが、そっちだろうと思うほうに向かって歩いているうちに、釧路川と思われるところに着いた。川に沿ってくだっていくと、にぎわった大きな村に行きついた。村の中を歩いて行くと、村の下端、村の上端がかすむほどに、たくさんの家が立ち並んでおり、家の間を歩いて行くと、私にほえかかろうと犬が集まってきてやかましい。村の中ほどには、島ほどもあるような大きな家があり、その外で咳払いしたり音を立てたりしていると、女の人が窓から私を見て、静かだが威厳のある声で家の主人にこう言った。

「家の外に見知らぬ人が来て歩き回っています。家に上げたほうがよろしいでしょうか？ 上げないほうがよろしいでしょうか？」

すると主人は、

「私に何か言いたいかな聞きたいかするのでやってきたのであろうから、早くお入れしなさい」と答えた。

それから女性が出てきて、「上がって休んでください」と言いながら家に入ったので、後について家の中に入り、主人に拝礼して顔を上げてみると、村人たちが困っていると私に話してくれたあの長者だった。お互いに挨拶を交わし、狩りや漁の話をし、皿をつかむところがないほど料理をたくさんよそってくれた。食事の後、一晩中よもやま話をしていたが、

「村人たちを気の毒に思っただけでやってきたのだが、その男はどこにいるのか？」と尋ねると、

「ここは釧路川の川上なのだが、この下に中游の村があり、河口の村がある。その河口の村長が料簡の悪いやつなのだ」というので、翌日その村長に案内してもらって山を下りた。中游の村を過ぎ、河口の村までやってきて、そのにぎわった村の真ん中にある立派な家の前で、訪いの音を立てると、女が出てきて主人に來客を告げた。すると家の主人が、

「私に何か言いに來た連中だろうから、早く通せ」という。

女は家の中の掃除をして、座をしつらえて私たちを招き入れたので、女の後にすぐ続いて入ってみると、本当に家の中にあふれんばかりに宝物が積み重なっていた。主人の向かいの席について丁寧に挨拶すると、主人はいいかげんに挨拶を返した。一緒に行った川上の村の長者は上のほうを眺めまわしていたが、長者というものは他人の家に上がって、この家は何を持っているのかなどとあちこち眺めまわしたりはしないものだと思っていたので、見回したりせずにいた。

河口の長者の弁舌は大変なもので、何か私が言おうとしても、さえぎられて口をはさむ暇もなく、言い負かされ言いこめられてしまうのだが、ようやく言葉の間が空いたところで、こう言った。

「あなたはどのような料簡で、村人たちが狩りをすると、獲ってきた熊や鹿を半分ぶんどり、その上に償いの品も取っているのか？」と問うと、

「私の狩場で狩りをする連中に、文句を言って何が悪い」と言って、いっこうに取り合わない。そこで、私は腹を立てて、

「お前の祈るカムイみんなにチャランケをしかけてやるから、どうなるか見ている」といって、まず火の神にチャランケをした。

「火の神と言えば、その家の長者が悪い行いをしたら、そのようなことをしないように心に思わせるべきものであろう。それがなぜ何も言わず、あのようなことをさせておくのか」と言ったが、返事がないので、次に宝壇の前に進み出て、火箸を床に突きたてながら、家の守り神にチャランケした。

「家の神、重き神よ。あなたは本当にえらい神であるのに、長者があのような悪行を行っても黙っているのですか？ あなたがカムイではないのなら、私の手で切り刻んでばらばらにして捨てますよ」

そのようにチャランケの言葉を述べ続けていると、家の神が宝壇を飛び越えて、前に飛び出し、炉の上座のところで跳ねまわり踊りまわったあげく、家の主人の頭の上に飛び乗って、弱く跳ね、激しく跳ねた。そのイナウの先が刺さって、主人の頭から二筋の血が川のように流れ、三筋の血が川のように流れた。そこで主人は、

「これからはもうあんなことをいたしません。私は悪行を行ってまいりました。許してください」と言いながら、頭の上の家の神に手を伸ばす。すると、家の神は炉の前に飛び降りて、上座で跳ねまわったあげく、宝壇を飛び越えて、元の位置に戻って行った。そこで私はその前に座って家の神に礼を述べ、何度も拝礼した。そして長者にこう言った。

「私は遠くの村の住民だから、お前があのような悪行を行わなければ、お前のことを聞くこともなかったのに、あのような悪行のせいで犬の使り、鳥の使りで耳にして、村人を助けにやってきたのだ。今後あのようなことをしたなら、今度は私の手でお前を罰してやるからな」

そういうと、私は村の者たちに自分の行器やら鉢やらを持って行くように呼びかけた。すると大勢の人々が集まってきて私に拝礼し、「これは私の行器だ、これは私の箱だ」と言いながら運び去った。後に残ったものはわずかなもので、そこいらの長者と同じほどの暮らしぶりであったことがわかった。私は再び長者をしっかりとつけ、「自分の村の者に情けをかけて、礼を尽

くして何事も行えば、立派な長者として尊敬されることになるぞ」と言い残して立ち去った。長者は、いかげんなやり方だったが何度も私に拝礼し、「もう悪行はいたしませんので、私のことは今後噂にもものぼらないでしょう」と言った。

川上の長者の家まで戻ってきて泊り、翌日我が家に帰ろうとすると、川上の長者が言うには、「あなたにご飯を作ってあげる人もいないということを知り、私の娘が妻となって食事の支度をしてあげたいというのですが」と言う。申し出をありがたく受けると、娘は祖母伝来の鞆を背負い縄で背負って私についてきた。

わが村に戻ると、どういうわけか私の村の人たちが私を本当の長者と見なしてくれて、私を村長にしてくれた。そして、山へ狩りに行くと立派な鹿や熊を獲り、魚捕りに行くと立派な魚ばかり捕って、何を食べたいとも何を欲しいとも思わずに暮らしていた。妻も働き者で、畑仕事をすると二つの倉、三つの倉を立てるほどであった。釧路の上流の長者は大きな熊を獲ると私を酒宴に招き、私が獲ると私が彼を招いて、互いのところを行き来し、仲良く付き合った。

しばらくすると妻に男の子が生まれ、その子をかわいがって暮らしているうちに、女の子も生まれた。男の子が大きくなると私は山に連れて行き、

「このように尾根が下がってきているところは、そこから立派な熊も下りてくる。鹿もそこを歩き回る。尾根が両側から下がってきて出会うところは、立派な熊が通るところだから、家にお招きするのだぞ」と教え、魚捕りのしかたも教えた。私は年老いて狩りにも行かなくなったが、息子たちは山へ行って、立派な熊や鹿を獲ってくる。私は年をとっても、イナウ削りやお祈りはしてやれるので、カムイにお祈りをしてやる。息子たちが大きくなると順に私の家の周りに立派な家を建ててやり、美人で働き者の奥さんをもってやった。娘たちも大きくなると順に私の家の周りに家を建てて、立派な稼ぎのよい男をもってやった。

彼らは獲物をたくさん獲ってくると、私にお祈りを頼みに来る。そこで、行ってお祈りをし、イナウを削ってカムイを送ってやる。そうすると、家に帰る時にみやげを持たせてくれるのだが、後からまた料理したものも持ってきてくれるので、何を食べたいとも欲しいとも思わずにいるうちに、息子たちにも娘たちにもたくさん子供が生まれたので、これこれこのようにチャランケをしに行き、美しい娘を連れて帰ってきて幸せになったという話を語りながら世を去った、ということだ。

## 解説

この話はチャランケというものがテーマになっている。チャランケとは本来、何か争い事があったときに、言葉によってそれを解決する手段である。そのもめごとの当事者の双方から弁

舌に優れた者を立て、その二人がお互いの主張を交互に述べ合って雌雄を決するわけだが、現代の裁判とは異なって判事にあたる人物はおらず、極めて客観的な方法で勝敗が決まる。すなわち、言うことが無くなって言葉に詰まったら負け。体力的に続けられなくなったら負けである。また金田一京助によると、席を立ったら負け、相手に手を上げて負けということ、肉体的な争いにはならなかったという。そして、負けた方は買った方の要求をすべて飲まねばならないが、いったん決着がついたら、その後はいっさいあとくされ無しというものだったという。

これが一般的なチャランケというものであるが、それを悪用したスнкеチャランケ (*sunke caranke* 「嘘のチャランケ」)、イッカチャランケ (*ikka caranke* 「盗みのチャランケ」) と呼ばれるものが、本編に登場する釧路河口の長者の行っていた悪行である。要するに弁舌に長けたものが、あることないことを人にふっかけてチャランケに持ち込み、上記のような形で圧倒して、賠償の品 (*asinpe*) を巻き上げることを言う。こういった話は各地に伝承があり、沙流地方ではシリマオツテ (*Sirmaotte*) という人物が、このスнкеチャランケを行う者として登場する (例：萱野茂『ひとつぶのサッチポロ』平凡社 1979 : 215-234)。もちろん、こういうことをする人物は、物語の中では最後にひどい目にあって終わることになる。

一方、正当なチャランケを行おうとするのが、この話の主人公であるウライウシナイの男だが、ちちがあかないと見ると、彼はカムイを相手にチャランケを始めることになる。このカムイ相手のチャランケは、まさにアイヌ人における人間とカムイの関係をよく示したものであるといえる。本文で見ればわかるとおり、それは「祈る」とか「お願いする」というものではなく、むしろ「叱責する」とか「脅す」とかいった性格のものである。そして言いこめられて耐え切れなくなった家の守り神 (*cisekorkamuy*) は、とうとう自ら動き出して、家の主人に制裁を加えることになる。家の守り神というものは *tekekarkamuy* 「(人間が) 手づから作った神」のひとつであり、一種のイナウであるが、魂 (燠を水で冷ましたもの) を入れることによって、それ自体がカムイとなる。エンジュやドスナラで作られ、平取町立アイヌ文化博物館所蔵のものは、全長84センチ、直径7・6センチというもので (博物館ホームページによる)、けっこうな大きさがある。下端は壁に突きたてられるように尖らせてあり、それが頭の上で跳ね回るといふのだから、たまったものではなからう。

カムイに向かってチャランケするというのは、この物語の伝承だけでなく、日常の祈り言葉にもその片鱗がよく見られる。さらに白沢氏は、自分の夢の中の話として、川の上を炎が自分に向かって近づいてくるのを見て、近隣の男が火の神をつかって自分を呪い殺そうとしていることを知り、その火の神を乗せている水の神に向かってチャランケを行った話を語ってくれた

(中川裕『アイヌ語をフィールドワークする』大修館書店 1995: 121-122)。そこでも、カムイ側はチャレンジに負け、火の神は勢いを弱めて去っていく。この年代の人たちにとって、夢の中で起こった話は、現実に関わったことと同等の価値を持つ。言葉の力によれば、人間はカムイと対等に渡り合うことができるというアイヌ人の考え方は、こういったことに明確な形で表されている。そのような意味で、本編はアイヌ文化を知る恰好の教材といえよう。

#### テキストの表記法について

アイヌ語テキストの表記中、= (イコール) は、その前あるいはその後にあるものが人称接辞であることを示す。\_ (アンダーバー) を付したものは、その前の音素が交替して別の音素になっていることを示す。例えば、**an w\_a** → **an ma**。 **h\_i** や **y\_ak** のような例では、**h** や **y** が脱落することを示す。...とあるのは、単なるポーズ、言いよどみを表すのではなく、その後で明らかに別の語句に言い直したと思われる場合に付す。その際、**\*re ...** などのように**\***を添えたものは、単語が言いさしになって、不完全な形で終わっていることを示す。なお、こうした言いさし・言いよどみは、それを示しておかないと、どこまでを言い直しているのか判断がつかなくなるような場合にのみ示してある。<ne>のように<>で示したのは、佐藤知己氏が「有音休止」と呼んでいるものであり、おもに発話の最後の音節を繰り返す形で、次の発話までの間をとる語用上の形式である。

註は各ページごとに脚註の形で示した。脚註等における **N9104041FN** のような記号は、私の採録した資料の整理番号である。**N**(白沢ナベ) **91** (1991年) **04** (4月) **04** (4日に録音した) **1** (1本目のテープに収録されている) ことを示す。**FN** はフィールドノートの意味で、録音全体を聞き起したものを指す。

#### 参照文献：

『ユーカラ集』：金成まつ筆録 金田一京助訳註 (1959～1970) 『ユーカラ集』I～IX 三省堂

本文

Urayusnay <sup>1</sup> un kur a=ne wa	私はウライウシナイの者で
yaykoan kur a=ne wa an=an	一人で暮らしていた
ruwe ne korka	のだが
nep ne yakka a=kar.	何でも自分でやる。
sinen ne a=kar pe ne kusu,	ひとりのできるので
menoko monrayke ne yakka	女の仕事でも
okkayo monrayke ne yakka	男の仕事でも
a=eyaymonpoktusmak wa a=kar wa,	一生懸命やって
suke ne yakka =an <sup>2</sup> w_a	料理もして
pirka suke=an w_a a=e kor an=an ayne,	おいしい料理を作って食べ暮らし
tane anakne pon ... poro nispa a=ne hine	今は大長者となって
orowano ekimne=an kusu	そして狩りをするために
kim ta omanan=an ruwe ne kor	山を歩き回ると
pirka kamuy patek a=tomot pe ne kusu	立派な熊にばかり出会うので
pirka kamuy pirka yuk patek a=tomot wa	立派な熊、立派な鹿にばかり出会って
a=rura wa a=e kor an=an	獲ってきて食べていた
ruwe ene an h_i ne awa,	のであったが、
cep hemespa <sup>3</sup> wa cep ... cep hemespa kor	魚が上がってくると、
cepkoyki=an kusu arpa=an y_akka	魚捕りに行っても
pirka cep rupne cep patek	立派な魚、大きな魚ばかり
i=sam un uekarpa pekor sirki p ne kusu	私のそばに集まってくるようで
pirka cep patek a=ronnu wa a=yapte wa	立派な魚ばかり捕っては上げ、

<sup>1</sup> Urayusnay : 胆振地方や噴火湾沿岸地域の散文説話によく登場する地名。実際にどこを指しているのかは不明だが、uray「<sup>うら</sup>築杭」us「ある」nay「沢」が語源と思われるので、自分の地域のどこかにある地名として感じられるようである。

<sup>2</sup> suke ne yakka =an : この=an は suke=an の人称接辞=an が ne yakka によって分離して後ろに回った分離用法であり、suke=an ka ki「私は料理もする」と同じ意味を表すと考えられる。

<sup>3</sup> cep hemespa : cep は一般に魚を指すが、hemespa「のぼる」という表現をともなう場合は、鮭に特定されていると思ってよい。

a=se wa a=rura p ne korka	背負って運んでくるのだが、
sinen ne patek a=e p ne kusu <su>	ひとりで食べるだけなので
cise onnay ta a=satke wa poronno racitke.	家の中で干してたくさんぶら下げる。
piye hikehe kam ne yakka cep ne yakka	肥えたものが、肉でも魚でも
piye hike osumtapes kor oka.	肥えたものが油を垂らしている。
osumtacik kor oka ruwe ene an h_i ne wa	油をしたたらせていて
nep a=e rusuy nep a=kor_rusuy ka	何を食べたいとも何が欲しいとも
somo ki no an nispa a=ne wa an=an akusu	思わない長者として暮らしていて
kim peka omanan=an kor	山を歩きまわると
oyak oyak h_i un kotan or un nispa utar	あちこちの村の人たちと
a=tomot pe ne kus	出会うので
kim ta kuca <sup>4</sup> or_ ta rewsian y_akka <ka>	山の狩小屋で泊まっても
pirka uenewsar, pirka uenewsar patek	楽しい四方山話を
a=ki kor payeka=an <sup>5</sup> pe ne awa	してはお互い歩き回っていたところ、
sineanpata a=korewsian kur	ある日一緒に泊まった人が
isoytak hawe ene an h_i	このような話をした。
"a=kotanu anakne	「私の村は
Kusur sekor a=ye kotan ta an=an ruwe ...	釧路という村に私は住んでいる…
an=an wa	私は住んでいて
Kusur putu, Kusur noski, Kusur emko	釧路河口、釧路中游、釧路上流の
re kotan uorun w_a an pe ne ruwe ne wa	三つの村が並んで
oka=an ruwe ne awa	いるのですが
a=kotanu un ... a=kotani ... kotan kor kur <sup>6</sup>	私の村の村長は
arikinne irenkaha wen pe ne wa	とても料簡の悪いやつで
a=kotanu un utar ekimne wa	村人が狩に行つて

<sup>4</sup> **kuca** : 狩りのために山中に設けられている小屋。**kas** 「仮小屋」と異なり、調理道具なども運び入れ、長期間の滞在にも耐えられるようにしてある。個人の所有物だが、この話のように持ち主以外の人間でも利用して泊り込んでいたことがわかる。

<sup>5</sup> **a=ki kor payeka=an** : **payeka** は **omanan** 「歩き回る」の複数形。ここまで単数形 **omanan** が使われていたが、ここでは **payeka** が使われており、自分も他の村の人たちもそのようにして山を歩いていたということを表している。

<sup>6</sup> ここでは、自分の村の話と言うことになっているが、後で再会した時には、本人は釧路上流に住んでおり、釧路河口の村長が悪い奴という話になっている。

yuk ka ronnu kamuy ka ronnu wa	鹿を獲り、熊を獲って
sap w_a ewparoyki p ne p	きてそれで暮らしているのに、
'a=kor ekimne usi <sup>7</sup> ta eci=paye wa	『お前たち俺の狩場に行って
eci=ekimne ruwe ne.'	猟をしたな』
sekor hawean kor arpa wa	と言いながらやってきて、
kocaranke wa kam ne yakka mimara uk.	チャランケして、肉も半分取って行き
orowaun sintoko epausi ...	行器もぶんどり、
sintoko ka epausi <sup>8</sup> itanki ka tuki ka epausi.	行器も取り、お椀も盃も取り
patci ka epausi usi an kor	鉢も取って行って、
neni iki wa uekarpare p ne kusu <su>	そんなふうを集めているので、
cise kirttek <sup>9</sup> kane an nispa	(宝物が) 家一杯にある長者
ne wa an ruwe ne korka	となっていますが、
a=erampekamam w_a oka=an ruwe ne.	私たちは困っているのです。
sekor kane tanpe patek	このようなことだけが
a=eranak pe ne ruwe ne."	心配の種なのです」
sekor a=korewsi nispa hawean ruwe ne wa	と、私が一緒に泊まった長者が語り
wen ikemnu toy ikemnu a=ki.	私は大変気の毒に思った。
hempara ka arpa=an yakne a=wenpakasnu	いつか行ったら罰を与えてやろう
a=toypakasnu wa ek=an	こらしめてこよう
sekor yaynu=an kor an=an.	と思っていた。
yaykurkata iki korka	ひとりで学んだことではあるが
a=kor pawetok ekas pawetok kor kur anak	私のような雄弁家は
isam kuni a=ramu kor an nispa a=ne kusu	いないと自分で思う長者なので

<sup>7</sup> a=kor ekimne usi : 自分の狩りのテリトリーを指すと思われるが、文化人類学の研究者の間ではこういうものをイオルと称することが多い。しかし、ここでは **iwor** という言葉は使われておらず、一般に **iwor** がそのようなものを指すという例もきわめて稀である。いずれにせよ、この物語の中では、そのような独占的な領域を確保すること自体が否定的に語られている。

<sup>8</sup> epausi : 「patci sinep epausi っていうのは、patci ひとつ価値の悪いことだから patci ひとつくれている催促だ。tuki ひとつあたがう悪いことお前たちしたから、tuki ひとつくればとか」(N9104041FN) ということで、「～を～の代償として持っていく」ということらしい。

<sup>9</sup> kirttek : 『ユーカラ集』6巻 105頁に、「tan boro chise/upsororke/ kamuikorbe / eekirttekka『この大きな家／の内部／神宝が／ぎっしりと』」のような表現がある。

hempara ka arpa=an yakne	いつか行ったなら
ituye anakne a=etoranne korka	人殺しはしたくないが
par ani a=pakasnu ekasu(?) kusu ne	口でこらしめてやろう
sekor yaynu=an kor patek	と、思い続けて
inehempak pa an=an ruwe ne a korka <ka>	何年か過ごしていたが
hempara ka arpa=an w_a	いつかは行って
nispa kotan aynu kotan a=yaynukare ka ki	長者の村を見よう
sekor yaynu=an kor an=an pe ne kusu	と、思っていたので
sineanpeta arpa=an kuni a=ramu wa	ある日のこと、行こうと思いたち
orowano a=eramuskari	行ったことがなくて
a=kus uske a=eramuskari korka,	どう行くのかわからないけれど
tanpe neno tanpe neno e=arpa yakun	これこれこのように行けば
oro un e=sirepa nankor sekor yaynu=an hi	そこに着くだろうと思う方に
neneno neno arpa=an	そのとおりに行った
ruwe ene an h_i ne akusu <su>	ところ
kotan tom a=osma ruwe ene an h_i ne wa	村に行きあたって
tan te or rekor katu Kusur ...	ここの名前は釧路…
Kusur pet ne ruwe ne nankor	釧路川であろう
sekor a=ye uske a=osma hine orowano	というところに行きついて
pet pes san=an ruwe ene an h_i ne akusu	川に沿って下っていくと
inne kotan poro kotan soyke <sup>10</sup>	にぎわった村、大きな村の前に
a=osma ruwe ne wa	出て
soyke a=osma ruwe ne wa,	村の前に行きついて
kotan utur kari san=an <sup>11</sup> wa inkar=an h_ike	村の中を通って下ってみると
nepenepo utari inne kotanu inne.	なんと村人の多いにぎわった村か
kotan kese homaritara.	村の下端がかすむほど。

<sup>10</sup> poro kotan soyke : soyke は「～の外」という意味だが、村とか家の場合はそのすぐ外側ということで、「～の前」と訳したほうが適切な場合も多い。

<sup>11</sup> san=an : san を「下る」と訳しているが、この動詞は山手のほうから海側つまり川の下る方向に向かうことを表しており、必ずしも高度が下がることを意味しているわけではない。つまり、村が平面上にあっても、移動する方向が山から海のほうであれば san を用いるのである。

kotan pakehe homaritara kane	村の上端がかすむほどに
inne kotan inne cise an	にぎわった村、多くの家が立ち並んで
ruwe ene an h_i ne wa	いて
cise uturu a=kus wa san=an h_ike	家の間を通過して下っていくと
seta utar i=emik wa	犬が私にほえかかり
i=emik kusu uekarpa wa <wa>	ほえかかるために集まって
i=emik hawe royse kane kor	犬の吠え声がやかましい中を
san=an ruwe ne.	下っていった。
san=an akusu, kotan noski ta san=an kor	下がっていくと、村の中心に至り
kotan kor kur ne hi ne	村長だと
kuni a=ramu p an w_a	思われる
kotan pak cise mosir pak cise	村ほどもある家、島ほどもある家が
an ruwe ene an h_i ne wa	あって、
soykehe ta simusiska=an <sup>12</sup> ka ki,	その前で咳払いをし、
sihumnyar=an <sup>13</sup> ka ki kor	訪いの音を立てながら
apkasapkas=an kor an=an akusu	歩き回っていると
oro ta sine menoko soyne hine orowa	そこにひとりの女性が出てきて
soyne=an pe でない <sup>14</sup>	出てきたんじゃない。
puyar kari i=nukar hine orowa	窓から私を見て
cise kor kur eun ye ruwe ene an h_i ne ...	家の主人にこう言った...
hawe ene an h_i <sup>15</sup>	こう言った。
hawke itak ne korka	静かな言い方であるが
ruy itak ne a=puykotoro tuninpare <sup>16</sup>	激しく耳に響き渡って

<sup>12</sup> **simusiska** : 他人の家を訪れた時に、自分の来訪を知らせるための儀礼的な咳払い。

<sup>13</sup> **sihumnyar** : **simusiska** と同様に訪問の際にノックしたり、履物を脱いで打ち合わせたりして音を立てること。「誰かいますか？」などのような意味のある言葉を発したり、家の中を覗き込んだりすることは、きわめて不品行なことだと考えられていた。

<sup>14</sup> **soyne=an pe** でない : これは話の一部ではなく、白沢氏による訂正の言葉。

<sup>15</sup> **hawe ene an h\_i** : 行為を描写する際には **ruwe ene an hi** でよいが、言葉を引用する場合には、**hawe ene an hi** のほうが適当。

<sup>16</sup> **ruy itak ne a=puykotoro tuninpare** : ここはおそらく、その女性（奥さん）が立派な人なので、静かな声で話しているのに、威厳のこもった声として耳に響いたということではないかと思う。

a=nu ruwe ene *a ... hawe ene an h_i	このように聞こえた。
"soy ta arikinne areramuskari kur ek wa	「表にまったく見知らぬ人が来て
apkas apkas kor an ruwe ne.	歩き回っています。
ahunke ciki h_e pirka?	家に入れたほうがよろしいですか、
somo ciki h_e pirka?"	入れない方がよろしいですか？」
sekor kane itak akusu <su>	などと言うと
"ahunke yak pirka hawe ne.	「入れてやればよい。
nep kusu omanan kur	何のためにやってきて
i=soyke ta apkasapkas kor an hawe ne ya	家の外を歩き回っているのか
nep ka i=ye rusuy kusu nu rusuy kusu	何か私に言いたくて、聞きたくて
omanan hawe ne nankor_ na.	やってきたのであろうから、
tunas ahunke.	早くお入れしなさい。
kusu omanan pe <sup>17</sup> a=nu kusu ne na."	何しに来たのか聞くことにしよう」
sekor kane itak hawe	そのように言う声が
a=nu ruwe ne wa kusu	聞こえたので
orowa easir apa caka hine soyne hine <ne>	そこでやっと（女が）戸を開けて出てきて
"nispa kamuy ahun w_a sini yak pirka na."	「長者様、上がって休んでください」
sekor kane itak kor ahun w_a kusu	と言いながら家に入ったので
itak kurkasi ahun kurkasi a=yayrarire.	すぐにその後について
itak kasike a=eun'eun kane ahun=an	その言葉に甘えて家に入り
ruwe ene an h_i ne hine <ne> ahun=an w_a	そして家に入って
cise kor kur a=kohetari <sup>18</sup>	家の主人の方に頭を上げて
inkar=an akusu <su>	みると
hempara ka kim ta a=nukar wa	いつか山で会った
tapne kane an pe *a... *e...	これこれこういうわけで
kotan or un utar esirkirap kor okay pe ne	村人が困っている

<sup>17</sup> **kusu omanan pe** : **kusu** は接続助詞だが、この場合はその前の **tunas ahuke**（これ自体は命令法）に接続しているのではなく自立的用法であり、**kusu omanan pe** は「そのために旅してきたこと」＝「旅の目的」を意味している。

<sup>18</sup> **a=kohetari** : **ko** 「～に向かって」 **hetari** 「頭を上げる」。つまり主人の正面まで進んで行って相対するまで、顔を上げずにいたわけである。腰をかがめ頭を低くして家に入り、入ったら立ち上がりながら膝行して主人の指示する座まで行くのが、かつての作法であった。

ruwe ne sekor itak hawe  
 a=nu a nispa ne kane a=ekap  
 "hempak pa unukar=an ka  
 somo ki ruwe ne ya.  
 tanepo hempak pa tukarike ta  
 tanepo unukar=an ruwe ne."  
 sekor kane <ne> itak=an kor  
 a=ekap pe ne kusu  
 sinuma ka i=ekap a i=ekap a  
 uekap=an a uekap=an a <na> wa oka=an.  
 orowano ekimne oruspe ka  
 uamkir=an pe ne kusu  
 ekimne oruspe ne yakka  
 ney ta ney ta ekimne=an kor  
 pirka kamuy patek a=ronnu p ne.  
 sekor sinuma ka itak  
 asinuma ka hawean=an<sup>19</sup>.  
 cepkoyki=an y\_akka <ka>  
 rupne cep patek, pirka cep patek  
 hokure iyanke sekor haweoka somo ki no  
 iyanke iyanke sekor i=sam un uekarpa wa  
 pirka cep patek a=yanke wa  
 a=rura wa a=e p ne korka  
 sinen ne patek an pe a=ne kusu <su>  
 asinuma anakne a=e kasma wa  
 a=racitkere kor sat wa <wa>  
 sat uske a=ukosinanpa<sup>20</sup> wa

という話を  
 聞かせてくれた長者だった。挨拶して  
 「何年もお目にかかること  
 なくおりました。  
 何年かぶりにやっと  
 やっとお会いしましたね」  
 と言いながら  
 私が挨拶したので  
 彼も私に挨拶を返し  
 お互いに挨拶を繰り返した。  
 それから狩の話も  
 お互いになじみの間柄なので  
 狩りの話も  
 どこそこで狩りをしたら  
 立派な熊ばかりが獲れた。  
 という話を、彼も話し  
 私も話した。  
 魚捕りをしても  
 大きな魚ばかり、立派な魚ばかり  
 さあ上げろと言いはしないが  
 上げろ上げろと私のそばに集まってきて  
 立派な魚ばかり上げて  
 持ち帰って食べたけれど  
 ひとり暮らしなものなので  
 私（ひとり）ではたべきれなくて  
 ぶら下げて干して  
 干しがったのを紐でくくって

<sup>19</sup> このような狩りの話は誰とでもできるものであり、また重要な情報交換にもなったと思われ、人と人が出会った時の話題の中心をなしたものと思われる。そこから **ukoysoytak** 「会話する」 <uko- 「互いに」 iso 「獲物」 itak 「話をする」という表現ができたものであろう。

<sup>20</sup> **ukosinanpa** : ここでは魚を紐でくくるとを言っているが、その他に子供が家から出な

cise parka un a=osura.  
 a=yanke wa a=anu kor  
 anu kor an nispa a=ne  
 ruwe ne wa an=an ruwe ne."  
 sekor itak ??  
 oro ta <ta> menoko po  
 imatne menoko ka an.  
 pon matnepoutari ka oka.  
 poutari ka oka kor ne anan wa  
 ison kur\_ ne kusu  
 kam ne yakka cep ne yakka  
 poronno racitke wa oka.  
 orowano supa hine a=i=kopuni.  
 "hokure ipe. poronno ipe."  
 sekor hawas kor ki hine <ne>  
 pirka ipe pirka i=kopuni ki.  
 ita cikisma isam kane  
 a=i=kopuni ruwe ene an h\_i ne wa  
 ipe=an a ipe=an a. orowa uenewsar=an.  
 anepitta uenewsar=an ayne orowa  
 "tapne kane ikemnu kewtum a=yaykorpore.  
 tanpe kusu omanan pe a=ne ruwe ne wa  
 ney ta an kur\_ ne hawe ne ya?"  
 sekor itak=an akus  
 "tan te or anakne <ne> Kusus emko ...  
 Kusus emko ... Kusus peni ...  
 penihi<sup>21</sup> ne ruwe ne.

家の棚の上に放り上げた。  
 上げておいて  
 置いておく長者で  
 あるのです  
 と話した。  
 その家には若い娘  
 妻である女性もいた。  
 小さな女の子たちもいた。  
 息子たちもいて  
 (主人は) 狩りの名手なので  
 肉でも魚でも  
 たくさんぶら下がっていた。  
 それから料理を作ってよそってくれた。  
 「さあ食べなさい。たくさん食べなさい」  
 と言いながらよそってくれ  
 おいしい料理をたくさんよそってくれた。  
 お盆を掴むところがないほど  
 よそってくれて  
 食前に食べてから四方山話をした。  
 夜を徹して話をし続け、  
 「このように私は憐憫の情を抱きました。  
 それで歩き回っていたのですが  
 どこにいる男の話なのですか？」  
 と、私が聞くと  
 「ここは釧路の上流  
 釧路の上流…釧路の川上  
 川上なのです。

どのように竹を立てて、それを紐で縛り合わせて柵を作るような場面でも、この **ukosinanpa**  
 という動詞が用いられた例がある。

<sup>21</sup> **penihi** : **peni** は **pana** 「川下」に対する「川上」。 **Kusus emko** の **emko** は本来「半分」  
 という意味だが、川の流域で **kotan** 「村」があるという話になると、 **putu** 「河口」 **noski** 「中

Kusur noskike kotan an.	釧路川の中流に村があります。
Kusur putu ta kotan an ruwe ne an wa	釧路川の河口に村があつて
Kusur putu un kotan kor kur	釧路河口の村長は
arikinne wen irenka kor hi ne ruwe ne."	とても料簡が悪いのです」
sekor kane hawean w_a orowa	と言うので、そこで
"hawe ne yakun nisatta ne	「それなら明日
oro un i=sirepakasnu yak pirka."	そこへの道を教えてください」
sekor kane itak=an hine a=korewsi ruwe ne.	と私は言って、そこに泊まった。
orowa isimne i=rura hine	そして翌日私は連れられて
i=rura hine sap=an	案内されて山を下りた。
ruwe ene an h_i ne wa <wa>	そして
Kusur noskike un kotan	釧路中流の村を
akkari wa sap=an w_a	過ぎて下り、
Kusur putu un kotan or_ ta sap=an wa	釧路河口の村に下りて
"kotankorkur tan te or ne ruwe ne"	「ここに村長がいるのです」
sekor kane hawean w_a kusu	と（彼が）言うので、
oro ta <ta> soyke ta sap=an.	その前まで行った。
ramma koraci <sup>22</sup> inne kotan	相変わらずにぎわつた村
poro kotan ne ruwe ne wa	大きな村で
kotan kese erakrakoma	村の下端が遠く広がり
kotan pakehe erakrakoma kane siran	村の上端が遠く広がっている。
inne cise an ruwe ne.	（それほど）多くの家があつた。
oro ta kotan noski ta mosir pak cise	その村の中央に島ほどの家
pirka cise an ruwe ene an h_i ne wa	立派な家があつて
oro ta sihumnyar=an akusu	そこに行って訪いの音を立てると
puyar kari i=hotanukar	窓から私たちの様子を見た
menoko oro wa hokuhu	女から夫に

央」emkoのように並べられることが多く、noskiよりは上流ということになる。この話で putu, noski, emko だったのが、ここで peni に言い換えられた理由は不明。

<sup>22</sup> ramma koraci : 通常では「いつもと変わらず」といった意味で用いられる表現だが、ここでは、初めて来た場所であるので、「上流の村と同様」という意味で用いられているのだろうか。

<p>"soy ta neyun nispa utar ne ruwe ne ya ka  areramuskari nispa utar tun utura wa  cise soy ta arki wa oka ruwe ne.  sihumnyar ka ki, simusiska ka ki  kor oka ruwe ne.  ahunke ciki h_e pirka ya?  somo ciki h_e pirka ya?"  sekor uepekennu haweas akusu &lt;su&gt;  "nep ka i=ye kusu kar kusu  payekay utar ne nankor_ na. tunas ahunke.  kusu payekay pe  tunasno a=nu kusu ne na."  sekor haweoka<sup>23</sup>.  haweoka ruwe ene an h_i ne hine  orowa i=ahunke kuni  menoko munnuwe humi as.  sokar humi as<sup>24</sup> h_ine  orowaun i=ahunke kusu  rayokuskan hotku kane an w_a  apa caka wa soyne ruwe ne hine  "ahup rusuy kusu payeka utar ne ciki  tunasno ahup w_a sini yan."  sekor kane hawean wa kusu  seturu kasike a=yayrarire pa hine  ahup=an ruwe ene an h_i ne wa  inkar=an akusu sonno poka  cise onnay kirttek kane makakke kane</p>	<p>「表にどこの長者がただか  全然知らない長者がたが二人連れて  家の外に来ています。  訪いの音を立て、咳払いをして  います。  家に上げたほうがよいですか？  上げないほうがよいですか？」  と尋ねる声があると、  「何か私に言いたいがために  やってきた連中だろうから、早く通せ。  やってきたわけを  早く聞こうではないか」  と、(主人が)言う。  そう言って  すると私を招き入れるために  女が掃除をしている音がする。  座を整えている音がする。  それから私を招き入れるために  (女は)丁寧にかがみながら  戸を開けて出てきて、  「入りたくてやってきた方々ならば  さあさあ入ってやすんでください」  と言うので、  その後ですぐついて  私たちは家に入って  見ると本当に  家の中いっぱい、あふれんばかりに</p>
---	--

<sup>23</sup> haweoka : ここでは複数形になっているが、話の流れからすればここでの話者はこの家の主人ひとりのはずであり、なぜ複数形にしたのかは不明。

<sup>24</sup> munnuwe, sokar : 誰か客がやってきた場合は、このようにまず家に招き入れる前に家の中の掃除をし、客の席を整える。それが終わってからやっと客を家に上げるので、その間客は、たとえ雨が降っていようと、外で待っていなければならない。

pirka sintoko pirka suwop pirka patci  
 poronno a=ukaeroski wa  
 oka ruwe ene an h\_i ne.  
 mike kane kurkot kane ki wa  
 oka ruwe ene an h\_i ne wa  
 wen iyokunure toy iyokunure a=ki kor  
 cise kor kur arsoke ta  
 arpa=an hine a=an hine  
 orowa rayokuskan a=koonkami akusu  
 wenno wenno i=koonkami ruwe ne hine  
 wenno wenno i=koonkami ruwe ne wa  
 orowa rik peka rik peka  
 inkar inkar<sup>25</sup> pe ne korka <ka>  
 asinuma anakne nispa anakne  
 eytasa <sa> oya cise or\_ ta  
 oya kur or\_ ta ahup y\_akka  
 eytasa sousut peka no rik peka no  
 “hemanta hemanta kor kur an?  
 nep ka kor kur h\_e an?  
 nep ka sak kur h\_e an?”  
 sekor yaynu pa kusu  
 sikkarire p ne<sup>26</sup> ruwe ne wa  
 newaanpe ka a=kopan pe ne kusu  
 ne sikkarire ka =an ka somo ki no <no>  
 a=huymampa kor an=an

立派な行器、立派な箱、立派な鉢が  
 たくさん積み重なって  
 いて  
 光り輝いて  
 いて  
 本当にびっくりしながら  
 家の主人の向かい側に  
 行って座って、  
 丁寧にあいさつをすると、  
 適当にいいかげんに挨拶を返し  
 適当にいいかげんに挨拶して  
 (連れの長者は) 上のほう、高いところを  
 ながめまわしているのだが  
 私は、長者というものは、  
 あんまり、他人の家に  
 他人のところに行っても、  
 あんまり家の隅や上のほうを  
 「何々を持っている人だろう。  
 何か持っているひとだろうか  
 何も持っていない人だろうか」  
 と考えて  
 見回したりする  
 そんなことはしたくないので、  
 見回したりもせずに  
 観察していた。

<sup>25</sup> **inkar inkar**: 「誰が」ながめまわしているのかというのは、はっきり言っていないのだが、話の流れからすれば、同行した釧路川上の長者であろう。

<sup>26</sup> **sikkarire p ne**: ここの文章をそのまま訳すと、「長者というものは～見回すものである」となってしまうが、そういうことを言いたかったのではないはずで、途中で文の流れが変わってしまったのだろう。他人の家の中をじろじろ見まわすものではないというのはよく言われることで、逆に主人公が下賤な人間に身をやつして、わざとときよろきよろ家の中を見回すという物語もよくある。

ruwe ene an h_i ne hine orowaun,	すると
katkemat ka oka, poho utar ka okay	御婦人方もおり、息子たちもいる
kur ne anan wa okay wa	人物であることがわかり
oro ta itak uturu	その語る言葉の合間に
nep ka kap ka itak=an kuni	なにかかにか私が言おうとすると
tuye p ne kusu itak=an eaykap no	さえぎられるので何も言えず
i=itak'ekoyki i=itak'ecupu	言い負かされ、言いこめられ
ruwe ene an h_i ne korka <ka>	るのだが
itak uturu a=tere ranke a=tere ranke ayne	言葉の合間をさんざん待ち構えて
ponno itak uturu an hi ta	ちょっと間が空いたところで
"nispa kamuy nep purihi kor kusu	「長者殿は何の料簡があつて
kotan un utar ekimne wa	村人たちが狩りに行って
nep poka ronnu wa euparoyki kusu	何とか獲物を獲って暮らすためにする
ki ekimne kocaranke wa	狩りにいちゃもんをつけて
ronnu wa arki kamuy ne yakka	獲ってきた熊も
arkehe kouk.	半分ぶんどる。
yuk ne yakka arkehe kouk.	鹿も半分ぶんどる。
orowaun mosma asinpe ka	その上他にも償いの品を
kouk pe ne ya? <sup>27</sup> <ya>	取っているのですか？
nep purihi ene an w_a	どういう根性で
nispa puri utarpa puri ene an w_a	長者として首長としての器量を
e=kor h_i ne ya? <sup>28</sup> "	お持ちなのですか？」
sekor kane itak=an akusu	と、私が言うと
"a=kor ekimne usi oro ta ekimne utar	「私の狩場で狩りをする連中に
a=kocaranke hi	チャランケすることの
neun an h_i e=ruska p ne ya?"	どこに腹を立てているのだ？」
sekor kane hawean kor i=hawkokupucupu.	と言いながら、私をやりこめる。

<sup>27</sup> **kouk pe ne ya?** : ここまでの主語は *nispa kamuy* 「長者殿」であり、実際には目の前の相手を指しているのだが、三人称の名詞が主語となっているので、動詞も三人称となっている。

<sup>28</sup> **e=kor h\_i ne ya?** : *kor* の主体は註 27 と同じ人物だが、ここでは 2 人称に切り替わっている。

a=ruska kusu	腹が立ったので
orowano a=kocaranke ruwe ne korka	こちらからチャランケをしかけたが
“yaykarap an!” sekor an hawean=an akus_	「謝れ！」と言っても
sinep ka ye ka somo ki.	ひと言も謝らず
sine itak ka ye ka somo ki.	一言隻句もない。
a=koruska kor orowano <no>	私は腹を立て、そこで
"hawe ne yakun	「それならば
e=hekote kamuy opitta a=kocaranke wa	お前の祈る神すべてにチャランケして
ene sirki hi e=nukar kusu ne na hani."	どうなるか見ているんだな」
sekor itak=an kor orano	と言って、
hoski apehuci kamuy a=kocaranke.	まず火の神にチャランケをした。
"apehuci ne kusu <su>	「火の神であれば
hekote nispa turano an nispa	見守る長者、共に暮らす長者が
wen puri kor yakun	悪い行いをしたなら
‘iteki neno an puri e=kor kusu ne na.	『そのようなことをするのでないぞ』
wen pe ne na.’ sekor an pe e=epakasnu.	悪いことだぞ』ということを教え、
kewtum or peka ki <sup>29</sup> kusu ne	心に思わせるようにする
nankor pe ne ruwe ne hike	だろうものを
nep kusu mosma no e=an pe ne ya	なぜ何も言わずにいるのか。
wa ene e=kor_ nispa iki hi ne ya?"	だから長者がああするのではないのか？」
sekor itak=an kor	そう言いながら
apehuci kamuy a=kocaranke.	火の神にチャランケを行った。
nep ka itasa ye hawe ka isam pe	何も返事がないのだが
ene a=kocaranke a a=kocaranke a wa	チャランケの言葉を唱えつづけ、
orowa cise sopa ...	次に家の上座に
cise sopa ehorari kamuy <sup>30</sup> kotcake ta	家の上座にいますカムイの前に
sintoko kotca ta <sup>31</sup> arpa=an w_a	行器の前に進み出て

<sup>29</sup> kewtum or peka ki : kewtum or peka e=epakasnu 「心の中で教える」ということで、直接言葉で教え示すのではなく、「悪いことだ」と心の中で思うように仕向けるということ。

<sup>30</sup> cise sopa ehorari kamuy : すぐ後に出てくる cisekorkamuy 「家の守り神」のこと。家の一番上座にあたる北東隅に立てられているので、「家の上座にいますカムイ」と呼ばれている。

orowano, ape pasuy a=kor wa	火箸を手に持って
a=esirotk e a=esirotk e kane kor	それで床を何度もつきながら
"cisekorkamuy pase kamuy	「家の神、重き神よ、
sonno kamuy ne wa an hike <ke>	本当にえらい神であるのに
nep purihi kor wa	どいういうお気持ちで
hekote nispa ene an wenpurikor hike	長者があのような悪行を行っても
mosmano an pe ne ruwe ne ya?	黙っているのですか?
pakasnu somo ki p ne ruwe ne ya?"	罰しようとしなのですか?」
sekor an pe a=ye kor oro	と、言いながら
"kamuy ka somo ne yakun	「カムイではないのなら
a=tekehe ani a=tuypatuypa.	私の手で切り刻んで
a=tatatata <sup>32</sup> a=osura kusu ne na."	ばらばらにして捨てますよ」
sekor itak=an kor	と言いながら
yayocarankekote=an akusu <su>	ひとりでチャランケしていると
sintoko kama hesasi terke ruwe ne hine	(家の神が)行器を越えて飛び出してきて
orowano <no> ape etok ta arpa wa	炉の前までやってきて
orowano horipiripi terketerke.	跳ね踊り
terketerke ruwe ene an h_i ne ayne	跳ねまわり
terketerke kor an ayne <ne>	跳ねまわったあげく
cisekornispa sapa ekari ...	主人の頭に向かって
sapa kasi un terke wa	頭の上に飛んで
yan ruwe ene an h_i ne hine	乗っかり
orowano sapaha kasi ta hawke terke	そして頭の上で弱く跳ね
ruyno terke ki p ne kusu	激しく跳ねるので

<sup>31</sup> **sintoko kotca ta : cisekorkamuy** が立ててある北側の壁には、**sintoko** 「行器」、**patci** 「鉢」、**suwop** 「箱」などの品々によって、**ioykir** と呼ばれる宝壇が作られている。それをここでは **sintoko** で代表させている。

<sup>32</sup> **a=tuypatuypa a=tatatata** : ここで主人公がチャランケをしにかけている家の守り神 (**cisekorkamuy**) は、一種のイナウであり、人間の手で作られたものである。その家の主人が亡くなった時などには解体してカムイの世界に送り返すことになっているが、このように罰として人間に切り刻まれてしまつては、カムイの世界に帰ることもできなくなり、カムイとして存在することができなくなってしまうであろう。

cisekonnispa sapaha wa tu kem ...

なんだっけ? **makanak a=ye** ははは

(中川) ケムが?

(中本) 血が出たんでしょ?

(白沢) あ、 **tu ... tu ...**

うん、 **kem** はでただけど。 **patce**.

**tu kem ... tu kem nay cirir**

**re kem nay cirir**

**kemi patce patce kor ki ayne**

**orowano yaysapa ka pekapeka kor**

**"tewano anakne**

**somo ene iki=an kusu ne na.**

**i=sittekka wa i=korpore yan**

**i=sittekka wa i=korpore yan na.**

**tane pak a=ki wen puri anak**

**sonno wen puri sino wen puri**

**a=ki katu ne ruwe ne na.**

**i=sittekka yan. i=sittekka yan."**

**sekor hawean kor**

**sapaha kasi un tekehe turituri ayne**

**konto ne ... nea kamuy ape etok un**

**terke ruwe ene an h\_i ne hine <ne>**

**orowaun ape etok ta**

**hawkeno terke ruyno terke ayne**

**orowa hosipi wa arpa wa**

**sintoko kama terke hine <ne>**

**as usi un terke wa as ruwe ne.**

**orowano onkami=an a onkami=an a**

**kotcake ta arpa=an w\_a a=an w\_a**

主人の頭から血が

**makanak a=ye** 「どう言うんだっけ?」

**kem** 「血」、**patce** 「飛び散る」

二筋の血が川のように流れ

三筋の血が川のような流れ

血が飛び散ったあげく

頭の上で(家の神を)受け止めながら

「これからは

あんなことはいたしません。

許してください。

許してください。

これまで私がした悪い行いは

本当に悪いこと、悪行を

行ってまいりました。

許してください。許してください」

と言いながら

頭の上に手を伸ばし手を伸ばしするうち

例のカムイは炉の前に

飛び降りて

それから上座で

軽く跳ね、激しく跳ねて

それから戻って行った。

行器をこえて飛び跳ね、

(元々) あった所に飛んで行って立った。

そこで私は拝礼を繰り返し、

その前に行って座って

"iyairaykere kamuy ne manu p e=ne a kusu	「有難うございます。神であればこそ
sonno ipakasnu sino ipakasnu	本当の罰、まことの罰を
a=ye itak e=nuno wa	私の言葉をよく聞いて
i=ekarkar wa en=kore ...	行って
i=korpare ruwe ne kusu	くださいました。
yairayke itak pirka itak a=e=kohoppa na."	心より感謝申し上げます」
sekor itak=an kor	と言いながら
a=koonkami a a=koonkami a	私は何度も拝礼した。
ruwe ene an h_i ne hine orowa	そして
kotankonnispa a=koytak hawe ene an h_i	村長にこのように言った。
"ene an puri somo e=kor yakun,	「このような行いをしなければ
ney wa a=nu p ka somo ne.	(お前のことを)聞くこともなかったろう。
tuyma kotan un kur a=ne kusu	私は遠くの村の住民だから
ney wa a=nu p ka somo ne awa	どこからか聞くこともなかったが
ene an wen puri e=kor kusu	お前がこのような悪行をしたせいで
seta or peka cikap or peka a=nu <sup>33</sup>	犬の便り、鳥の便りに聞き
e=kor wen puri	お前の悪行に
eytasa ikemnu=an w_a kusu	いたく同情したので
ikaopas=an w_a ek=an ruwe ne kusu,	助けにやってきたのだから、
tewano neno an puri	今後あのような行いを
e=kor yak anakne <ne>	お前がしたならば
a=e=wenpakasnu	手ひどい罰を
a=tekehe ani ki kusu ne na."	私の手で与えてやるからな」
sekor itak=an kor	と言うと
kotan kurka hawsitayki hine <ne>	村中に呼ばわった。
"sintoko kor kur patci kor kur	「行器の持ち主、鉢の持ち主
suwop kor kur	箱の持ち主
nep ne yakka kor wa ek pe	何であれここに持ってきた者

<sup>33</sup> seta or peka cikap or peka a=nu : 直訳すれば「犬のところから(経由で)、鳥のところから(経由で)聞いた」。要するに「風の便りに」ということであるが、犬の吠え声、鳥の囀りをカムイの語る声として聞くという発想が、このような表現を生んだのだと思われる。

asinpe ne kor wa ek pe	償いの品として持ってきた者
asinpe a=kouk utar uekarpa wa	償いを取られた者たちは集まって
anan usi ta rura yak pirka na."	元の場所に運んでいきなさい」
sekor kane hotuypa=an <sup>34</sup> wa	と言って叫び
kotan kurka hawsitayki p ne kusu	村中に知らせたので
orowano inne utar uekarpa wa	大勢の人々が集まってきて
i=koonkami rok i=koonkami rok	私に拝礼を重ね、
"nispa kamuy ney ta kotan	「長者様。どこの村で
osukup nispa ne yakka	育った長者様（だか知らないが）が
sirkirap=an hawe nu wa	私たちが困っている話を聞いて
i=ka opas wa ek wa iyairaykere na."	助けに来てくれて有難うございます」
sekor hawas kor i=koonkami wa orowa	と言いながら私に拝礼し
"tanpe a=kor sintoko. tanpe a=kor suwop.	「これは私の行器だ。これは私の箱だ。
tanpe a=kor patci. tanpe a=kor itanki.	これは私の鉢だ。これは私のお椀だ。
tanpe a=kor otcike, tuki ne ruwe ne."	これは私の折敷、杯だ」
sekor hawas kor opitta rura wa isam akusu	と言いながら、全部運び去ると
okake ta <ta> tumuan <sup>35</sup> kur tumuan nispa	後に残ったのは、そこいらの長者の
horari ruwe pakno	すまいほどの
horari kur ne anan ruwe ne.	暮らしぶりの男だったのがわかった。
orowa a=koytak hawe ene an h_i.	それから男にむかって言った。
"tewano anakne neno an puri kor yakun	「今後、あのような悪行を行ったなら、
a=tekehe ani a=pakasnu kusu	私が手ずから罰を与えに
ek=an kur a=ne ruwe ne kusu <su>	やってくるからな。

<sup>34</sup> hotuypa=an : 「叫んだ」は4人称になっているが、その前後に出てくる hawsitayki 「大声で知らせる」は3人称になっており、誰がこのせりふを言ったのか判然としないところがあるが、話の流れからすると主人公が言ったと考えたほうがよいので、ここではそう訳しておく。

<sup>35</sup> tumuan : 「並みの」「普通の」。yayan、semas などと同様の意味。tum は「(詰まったもの)の中」で、「(他の人の)中にいる」という語源かとも思うが、そうだとすれば tumuean となるべきところ。『ユーカラ集』には tumuan nanka tumuan shirika という表現が複数回出てきて、「普通のおもぎし、普通の容貌」と訳されている場合(1巻117頁など)と、「強そうな顔、強そうな容貌」と訳されている場合(4巻66頁など)がある。後者は tumu 「力が」 an 「ある」と解釈できそうだが、果たしてこのふたつの意味はどういう関係にあるのだろうか。

iteki neno an puri e=kor y\_ak pirka.  
 e=kotanu un utar  
 e=erampokiwen w\_a <ma>  
 nep ne yakka ... nep kar y\_akka  
 e=koonkami kor e=ki wa ne yakne  
 nispa ne a=e=ramu  
 nispa ne a=e=kor pe ne ruwe ne na."  
 sekor a=koytak kor a=hoppa.  
 "tewano anak pirka yaypakasnu  
 sonno yaypakasnu  
 a=ki kusu ne ruwe ne."  
 sekor hawean kor  
 i=koonkami a i=koonkami a ruwe ne.  
 wenno wenno i=koonkami p ne a korka  
 rayokuskan i=koonkami.  
 "a=kor wen puri anak tane a=osura ...  
 a=osura pe ne kusu  
 a=kor wen puri anak tewano asuruhu as ka  
 somo ki nankor\_ ruwe ne na."  
 sekor hawean kor a=hoppa hine  
 hosippa=an ruwe ene an h\_i ne wa  
 nispa kamuy uni ta arki=an hine orowa  
 "a=kor\_ nispa an kuskeraypo  
 nispa utar kor kotanu mono easkay  
 ratci easkay ruwe ne."  
 sekor\_ ne nispa ka hawean kor  
 i=koonkami a i=koonakmi a kusu  
 ruwe ene an h\_i ne hine,  
 ora isimne hosipi=an kusu iki=an akusu  
 oro ta an ponmenoko  
 "suke kur ka sak no an

決してあのような悪心を持つのではないぞ。  
 お前の村の人々を  
 あわれに思って  
 なんてあれ…何をしても  
 拝礼しながら行えば  
 立派な人物と思われ  
 長者として遇されることになるぞ」  
 と言って、私は去った。  
 「これからは立派に改心し  
 本当に悔い改めることを  
 いたします」  
 と、(その長者は) 言いながら  
 私に何度も拝礼を重ねた。  
 いいかげんな拝礼ではあったが  
 かしこまって私を拝んだ。  
 「私の悪い行いは  
 もうやめますので  
 私の悪行は今後噂にも  
 のぼらないでしょう」  
 という言葉を聞きながら私は去り  
 戻って行って  
 (川上の) 長者の家まで来ると  
 「わが長者殿(主人公)のおかげで  
 (河口の) 長者たちの村も静かになり  
 落ち着くことでしょう」  
 と、その長者も言いながら  
 私に拝礼を重ねるので  
 そして  
 翌日、我が家に戻ろうとすると  
 その家の若い娘が  
 『ご飯を作る人もいない

kur ne hawe ne yakun,  
 itura=an w\_a suke poka =an w\_a  
 a=ere rusuy ruwe ne wa  
 wen ruwe ne ya?" sekor kane  
 a=matnepo i=ye ruwe ne wa."  
 sekor kane hawean kor\_  
 nea nispa i=ye p ne kusu  
 "pirka hawe ne. <ne>  
 nep akkari ka a=eyairayke p  
 ne hawe ne wa."  
 sekor itak=an akusu  
 orowaun sut ketusi tomo tarusi<sup>36</sup> hine  
 i=tura ruwe ne wa,  
 a=kotanu ta hosipi=an  
 ruwe ene an h\_i ne wa  
 orowano a=kotanu un utar \*sin ...  
 mak kor an pe ne kusu <su>  
 sino nispa ne sonno nispa ne  
 i=ramu wa <wa>  
 orowano oro ta kotankorkur\_ ne  
 a=i=kar okkaypo a=ne wa an=an  
 rwue ene an h\_i ne wa  
 ekimne=an kor\_ ramma koraci  
 pirka yuk patek pirka ...  
 pirka kamuy patek.  
 cepkoyki=an kor pirka cep patek  
 i=sam un uekarpa wa  
 pirka cep patek poronno a=ronnu wa

お方ということであれば  
 私がついていって食事の支度なりと  
 してさしあげたいのですが  
 いけませんか』と、  
 娘が言うのです」  
 ということを  
 その長者が言うので、  
 「けっこうなお話です。  
 何よりも有難い  
 お話です」  
 と、私が言うと、  
 祖母伝来の鞆に縄をつけ  
 私についてきて  
 私の村に戻って  
 きた。  
 するとわが村の人たちは  
 どういうわけか  
 立派な長者、本当の長者と  
 私のことを考えてくれ  
 その村の村長に  
 私は若者だが、してもらった。  
 そして、  
 山に狩りに行くと、いつものように  
 立派な鹿ばかり  
 立派な熊ばかり。  
 魚獲りに行くと立派な魚ばかり  
 私のそばに集まってきて  
 立派な魚ばかりたくさん獲って

<sup>36</sup> sut ketusi tomo tarusi : ketusi は莫座を三つ折りにして蓋つきの鞆状にしたもので、  
 その中に衣類小物などを入れ、筒状にまるめて背負い縄でくくる。その背負い縄を tar といい、  
 真ん中の部分が広がっており、それを額に当て荷物を背負う。それを tomo tarusi という。

nep a=e rusuy a=kor\_ rusuy ka  
somo ki korka  
a=kor katkemat mono a wa an  
siri ka isam no  
ahun h\_i nani munnuwe sokar sekor  
hemem ne ruwe ne a korka

何を食べたいとも、何をほしいとも  
思わずにいたが、  
わが妻は座っている  
様子もなく、  
家に入るや掃除やら座席づくりやら  
そんなようなことだが、

oar itak uturu kama kama (笑)  
kama kama patek<sup>37</sup>

まったく話の間を飛ばし飛ばし  
話を飛ばしてばかり

orowano a=macihi toyta kor  
tu pu epuni re pu epuni p ne kusu  
toyta aep ne yakka poronno a=kor wa  
nep a=e rusuy nep a=kor rusuy ka  
somo ki korka  
Kusur emko<sup>38</sup> un nispa  
poro kamuy rayke kor i=tak.  
kamuy a=rayke kor a=tak.  
utaspa ukoapakas=an w\_a  
pirka uhekote ratci uhekote=an pe ne  
ruwe ene an h\_i ne katu a=eysoytak kor  
a=macihi inehempak pa an kor  
honkor hine i=nenokane an hekaci kor wa  
orowano a=ukoterkere a=ukoomap kor  
oka=an ruwe ene an h\_i ne <ne> wa  
matkaci ka kor  
menoko po ka kor pe ne kusu <su>

そして妻は畑仕事をすると  
二つの倉、三つの倉を立てるほどで  
畑の食べ物もたくさん手に入れて  
何を食べたくも、何をほしくも  
ないけれど  
釧路上流の長者は  
大きな熊を獲ると、私を招いてくれ  
私が熊を獲ると、私が彼を招いた。  
お互いにお互いのところを行き来し、  
良い付き合い、平和な付き合いをした  
様子を私は語りながら  
妻はしばらくすると  
妊娠して私似の男の子をもうけ  
私たちは子供を取り合い可愛がりあって  
暮らしていて  
女の子ももうけ  
娘も生まれたので

<sup>37</sup> oar itak～：この2行は物語の一部ではなく、自分の語りが十分でないことを述べた感想をはさんだもの。

<sup>38</sup> Kusur emko : emko を話の途中で peni と言い換えたはずだが、ここではまた emko に戻っている。

okkayo utar ...  
 okkayo ne hike rupne hike  
 a=tura wa ekimne=an w\_a  
 "tanpe neno situ ratki usi  
 kamuy rap ka ki.  
 pirka kamuy rap ka ki.  
 pirka yuk ka oro peka payekay pe ne.  
 pirka situ ratki usi uhekotano an kor  
 kari kamuy payeka.  
 pirka kamuy payekay pe ne wa  
 aske a=uk<sup>39</sup> ruwe ne na."  
 sekor an pe a=epakasnu kor  
 a=tura wa ekimne ka  
 a=epakasnu pa kor an=an.  
 cepkoyki ka cepkoyki ka a=i=tura wa  
 a=epakasnu kor an=an pe ne kusu  
 tane onne=an w\_a  
 kemapase=an pe ne kusu,  
 asinuma anak  
 ekimne=an ka somo ki korka  
 a=poutari ekimne wa pirka kamuy patek  
 pirka yuk patek se wa  
 arki ruwe ene an h\_i ne wa  
 pirka kamuy se wa arki kor, inawke ...  
 kemapase=an w\_a an=an korka  
 inawke anak a=easkay pe ne wa  
 inawkeekasuy=an.  
 kamuykoonkami=an w\_a  
 a=pohoutari tane rupne hike

男たちが…  
 男の（子の）ほうは大きくなると  
 一緒に山に行き、  
 「このように尾根が下がっている所は  
 熊も下りてくる。  
 立派な熊も下りてくる。  
 立派な鹿もそこを歩き回る。  
 立派な尾根が下がって交わると  
 そこを熊が通る。  
 立派な熊が通るところだから、  
 家にお招きするのだぞ」  
 ということを私は教えながら、  
 連れまわって狩りのことも  
 教えていた。  
 魚捕りにも一緒に行って、  
 教えていたので、  
 もはや年老いて  
 足が重くなったので、  
 私は  
 狩りには行かなくなったが  
 息子たちは山へ行って立派な熊ばかり  
 立派な鹿ばかり背負って  
 帰ってきて、  
 立派な熊を獲ってきてイノウ削り…  
 私は年は取っているが  
 イノウ削りはできるので、  
 イノウを削ってやれる。  
 カムイにお祈りをしてやり  
 息子たちも、もう大きくなったものは

<sup>39</sup> aske a=uk : aske uk 「～を招待する。～を招き入れる」。もちろん、熊を獲ってくることを言っている。

opokin a=unihi okari <ri>  
 pirka cise a=kar wa  
 oro ta pirka katkemat  
 nepki katkemat a=etun w\_a  
 a=korpore p ne kusu  
 opitta <ta> nep e rusuy nep kor\_ rusuy ka  
 somo ki no oro ta oka.  
 menoko po utar\_ ne yakka  
 rupne hike opokin cisekar=an w\_a  
 i=soyke ta cisekar=an w\_a  
 onne pakno a=epunkine kuni a=ramu kusu  
 cise okari cisekar=an w\_a  
 oro ta a=ari p ne korka  
 menoko utar ne yakka  
 pirka okkayo yayparoyki easkay okkayo  
 a=numke wa a=korpore p ne kusu  
 pirka nepki pirka iraye  
 pirka cep ne yakka koyki wa rura wa  
 kemapase=an korka  
 “pirka kamuy a=rayke.  
 a=onaha ek wa kamuy koonkami.”  
 sekar hawas wa oro ta arpa=an kor  
 kamuykoonkami=an a =an a wa  
 orowa a=an w\_a ne yakka<sup>40</sup>  
 inawke a=easkay pe ne kusu  
 pirka inaw a=ke a a=ke a wa  
 kamuy hopuni a=ekasuy orowa  
 hosipi=an kusu ne kor

順に私の家のまわりに  
 立派な家を建ててやり、  
 そこに美しい奥さん  
 働き者の奥さんをもらって  
 やったので、  
 みんな何を食べたいとも何を欲しいとも  
 思わずに、そこで暮らした。  
 女の子たちも  
 大きくなったら順に家を建てて  
 私の家の外に家を建てて  
 年老いるまで指導してやろうと思うので  
 家の周りに家を建てて  
 そこに置いたのだが、  
 女たちにも  
 立派な男、稼ぎのいい男を  
 選んで婿にしてやったので  
 よく働き、よく狩りをし、  
 立派な魚も捕ってきて  
 私は年老いたが、  
 「立派な熊を獲りました。  
 お父さん来て神にお祈りをしてください」  
 と言われると、そこに行って、  
 熊の神に礼拝を重ね、  
 座ったままであっても  
 イノウ削りは上手なので  
 立派なイノウを削って  
 カムイを送ることができる。  
 家に帰ろうとすると、

<sup>40</sup> a=an w\_a ne yakka : いささか聞き取りに自信がないが、このように聞こえる。歩いて狩りをしたりすることはもうないが、座ったままの仕事であればできる、という意味として解釈した。

a=i=anire ka ki p ne korka  
ios ka anpa ... supa hike ka  
supa yakka i=koanpa wa arki p ne kusu  
nep a=e rusuy ka nep a=kor\_rusuy ka  
somo ki no <no> oka=an ayne  
a=kor katkemat ne yakka  
orowa a=poutari ne yakka posiresikte.  
a=matnepoutari ne yakka  
poronno posiresikte wa  
posiresikte pokor siri a=nukar kor  
tapne kane an pe,  
oro ta caranke=an kusu arpa=an w\_a  
orowa pirka katkemat  
i=tura rusuy yak ye wa  
orowa a=tura wa ek=an w\_a  
pirka urespa pirka hekattar kor wa  
a=epirka katu a=eysoytak kor  
onne=an hawe ne na.  
sekor nispa kamuy isoytak kor onne  
yak a=ye hi ku=nu a wa.

(みやげを) 持たせてくれるのだが  
後からも料理したのもの  
料理を作っても持ってきてくれるので  
何を食べたいとも何を欲しいとも  
思わずにいるうちに、  
私の妻も  
息子たちもたくさん子供を産み  
娘たちも  
たくさん子供を産んで  
大勢の子供が生まれた様子を見ながら  
これこれこのように  
チャランケをしに行って  
すると美しい女性が  
一緒に来たいというので  
連れて帰ってきて  
立派に子育てをし、良い子供たちを得て  
幸福な生活を送ったことを語りながら  
年をとったという話だ。  
と長者が語りながらこの世を去った。  
ということ、私は聞いたのだ。

(なかがわ ひろし・千葉大学人文社会科学研究所)

Ainu Folklore Text-13  
Nabe SHIRASAWA's *uepeker*,  
“The Anger of the God of House”

NAKAGAWA Hiroshi

**Summary:**

This text was told by the late Ms. Nabe Shirasawa (1905-93, born in Chitose), on June 02, 1992. When we recorded it, we accompanied another Ainu speaker, Mrs. Toshi Ueda, who came from Asahi, Biratori-cho.

**Outline of text:**

I am a man of Urayusnay. I was living by all alone but I could do everything of men's and women's works. When I walked around the mountains for hunting, I often met men from other villages and talked with them in hunting-huts.

One such an occasion I heard a rumor that a chief of a Kushiro village often accused his village people for hunting in his territory, and divested their treasures as compensations for it. I got so angry that I started for the village some years later. Finally I reached a village by the upper reaches of the Kusiro river. When I entered a big house I found that the master of the house was the man who had told the tale of the wicked chief.

Next day I went down with the man to the village by the Kushiro estuary, which the wicked man lived at. We arrive at the center of the village and went in the chief's house. He was a so eloquent man that I could barely interrupt his words. Finally I butted in his talk and condemned his conduct, but he never listened to my words. I got angry so that I started to protest at first the Fire Goddess. Then I protested the God of House, saying that if he continued to neglect the chief's bad conduct, I would dismantle and cast away the God's body. Hearing my words the God jumped forward and up to the head of the chief, dancing up and down there. Oozing out blood from his head, he apologized me, saying he would never do such a bad deed.

I returned to the village of the upper reach and stayed overnight there. Next morning, when I was about to return home, the master's daughter wanted to come with me and serve food for me as my wife. I was pleased and took her my home. We had many children and lived a happy life.